

令和4年度入学生用 カリキュラムチェックリスト
 《総合科学部 社会総合科学科 公共政策コース》

・ディプロマポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

| 科目名 | | ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。 | 科目の教育目標 |
|---------|-------------------------------------|--|-------------------------------|--|--|--|--|-------------|---|---|---------|
| | | (1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。 | | (3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。 | (1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。 | (2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。 | | | | |
| 教養科目群 | 歴史と文化 | | | | | | | | | 人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「ものの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。 | |
| | 人間と生命 | | | | | | | ○ | | ・人文科学分野(歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など)を中心に学ぶ。 ・人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 ・様々な地域、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。 | |
| | 生活と社会 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学、技術分野などへ裾野を広げる。 | |
| | 自然と技術 | | | | | | | ○ | ○ | ・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 ・自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。 | |
| | ウェルネス総合演習 | | | | | | | ○ | ○ | ・健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにした講義と演習、実習により総合的に学び、考える。 | |
| | 現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。 | | | | | | | | | | |
| 創成科学科目群 | グローバル科目 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ・異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。 | |
| | イノベーション科目 | | | | | | | ○ | ○ | ・さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。 | |
| | 地域科学科目 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ・地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。 | |
| 基礎科目群 | SIH道場 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ・専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。 | |
| | 情報科学 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ・情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 ・数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 | |
| 外国語科目群 | 英語 | | | | | | | | | 英語や初修外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。 ・基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 ・基盤英語は、高校までに身につけた英語力の充実を図り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 ・主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基盤英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 ・発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。 | |
| | 初修外国語 | | | | | | | | | ・英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。 | |
| | 総合科学入門講座 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ・日本語で論理的文章を書く能力の基礎を身につける。 ・情報リテラシーを身につける。 ・総合科学部で行っている幅広い研究の一端を知る。 ・留学その他の学習プログラムについて理解する。 | |

| 科目名 | | ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|---------------------|--------------------|--|--|-------------------------------|---|--|--|---|---|--|---|
| | | 社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。 | (1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。 | (3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を身につけている。 | (1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立して個人として主体的に行動することができる。 | (2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。 | 法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。 | | | |
| 学部共通科目 | 科学論 | ◎ | ○ | | | | | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・文化・社会と自然との関わりについての理解 ・専門的知識を体系的に理解できる能力の育成 ・論理的思考力の養成 ・日本語の論理的文章を理解できる能力の養成 ・日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成 ・情報リテラシーの養成 ・豊かな人間性の涵養 ・高い倫理観の涵養 ・自分で問題を発見しようとする態度の養成 | |
| | 情報処理基礎論 | | ○ | | | | | | | <p>現代の情報化社会を生きていく上で、さまざまなデータを分析したり、ソフトウェアを扱ったりする機会はますます増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ、方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は、科学における認識の基礎である。また、諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは、情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろん、重要な意思決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。総合科学部では、こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため、体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は、そのプラットフォームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて、統計学に関する基礎的な知識を学び、データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。</p> | |
| | 総合科学の基礎A | | | | | | | ○ | | <p>現代日本語の基本的なしくみ(構造)とその適切な運用について理解することを到達目標とする。日本語を母語とする者としての最低限必要な知識(音声・文法・語彙など)とその具体的な運用を実践的に学び、高めしていく。</p> | |
| | 総合科学の基礎B | | | | | | | ○ | | <p>文化とは何かを認識し、文化現象を分析する様々なアプローチについてことについて学ぶ。さらに文化の表現の諸相にも触れることによって、文化を研究するための基礎能力を獲得する。</p> | |
| | 総合科学の基礎C | | | | | | | ○ | | <p>人文科学(哲学)に関わる幅広い知識の理解を目標とする。日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。</p> | |
| | 総合科学の基礎D | | | | | | | | ○ | <p>スポーツ健康科学における各領域の研究課題について理解する。</p> | |
| | 総合科学の基礎E | | | | | | | ○ | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。 2. 地域住民の健康増進との関連において、心理学の基礎的な学術的知識を修得している。 | |
| | 総合科学の基礎F | ◎ | ○ | | ○ | | | | ○ | ◎ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 公共政策の理念と制度体系を説明できる。 2. 公共政策学の現代的実態と課題を説明できる。 |
| | 総合科学の基礎G | ◎ | ○ | | ○ | | | | ○ | ◎ | <p>ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を徹密に把握し理解する。</p> |
| | 総合科学の基礎H | ◎ | ○ | | ○ | | | | ○ | ◎ | <p>高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人々に対して、社会的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が、どのようなみでなっているのか、それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけることを目標とする。</p> |
| | Academic English I | | | | ◎ | | | | | | <p>English for Global Purposesをテーマとして、日本文化及び日本時事を扱う英語の文章を学習する中で、高等学校で学んできた英語のルール(英文法・文型の基本など)と単語熟語力を再確認し、英語を読む力と多少早いスピードで聴く力を定着させる。また、英語で「日本」を考え、理解し、既存の英語力で発信できるようにする。</p> |
| Academic English II | | | | ◎ | | | | | | <ol style="list-style-type: none"> (1) 英語で行われる大学の授業に必要な英語の基礎技能を習得する。 (2) 英語の資料を読み、基本的なレベルの英語のレポートを書き、英語でプレゼンテーションができる。 | |

| ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|-----------|-------------------|--|--|-------------------------------|--|--|---|---|---|
| 科目名 | | 社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。 | (1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。 | (3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。 | (1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。 | (2) 他者との共同作業の中で様々な社会課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。 | 法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。 | |
| | Extensive Reading | | | ◎ | | | | | e-ラーニングを利用した、英語多読及び語彙構築プログラムでの学習を通じて、4000語レベルまでの語彙力・速読力を到達目標とする。継続的の自律学習で英語力の維持及び向上をはかる。 |
| 実践学習科目 | キャリアプラン入門 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | 大学の現実と課題を各自が理解し、大学における真摯な学び(広い教養と専門的力の養成)の重要性を自覚し、今後4年間の学習計画を立てることによって、卒業後も自律・自立して学習できる姿勢を身に着ける。 |
| | 課題発見ゼミナール | ○ | ○ | | ○ | ◎ | ◎ | | 1. 文献・資料・データ等の収集ができる。 2. 文章を論理的に読み理解できる。 3. 文章を論理的に書くことができる。 4. 自身の関心についてプレゼンテーションできる。 5. 社会問題の解決方法について他者とコミュニケーションを取りながら討議できる。 |
| | キャリアプラン | | ○ | | ○ | ◎ | ◎ | | 1) 自己理解を深め、将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。 2) 将来ビジョンと現状の差異(課題)を把握し、その解決に取り組むための行動計画が策定でき、具体的な行動を始めることができる。 3) 行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。 |
| | 短期インターンシップ | | ○ | | ◎ | ○ | ◎ | | ①事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。 |
| | 実践力養成型インターンシップ | | ○ | | ○ | | ○ | | 徳島県内の企業・団体が抱える課題に対して、受入先と学生が協働してミッションの達成を目指す、実践型のインターンシッププログラムにより、社会人としての素養(職業人意識)やコミュニケーション力を磨く。 |
| | 総合科学実践講義A | | | ○ | | | ○ | | 国際的感覚を涵養し、総合的な文化研究を身につけること。 |
| | 総合科学実践講義B | | | | | ○ | ○ | | 1. 心身の健康に関する基礎知識(医学的知識を含む)を身につける。 2. 医療・産業・福祉などの多様なフィールドに関する知識を身につける。 3. 地域社会で活躍する能力の育成。それらの問題に対してどのような対応がなされているかを知る。 |
| | 総合科学実践講義C | ◎ | ○ | | ○ | | | ◎ | 日本の経営の実態、及びグローバル化への企業の対応についての基本的な知識を修得している。 |
| | 総合科学実践講義D | | | | | | ○ | | メディアと芸術を用いた表現と地域活性化事例の理解。 |
| | 総合科学実践講義E | ◎ | ○ | | ○ | | | ◎ | 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造・文化構造との関連で把握することができる。 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる。 |
| | 総合科学実践講義F | | | ◎ | | | | | Students in this course will have experience using English to describe orally and in writing their own opinions and experiences as well as commenting on the experiences and viewpoints of others. Oral presentation exercises make students more comfortable in public speaking. Students increase confidence in their foreign language ability by taking a course offered entirely in English by a non-Japanese instructor. |
| | 総合科学実践プロジェクトA | | | | | | ○ | ◎ | 地域や国内外において日本語の支援を必要とする日本語学習者の現状を知り、そこに可能な日本語による支援を考え、実践する。 日本語による支援の実践を通じて、多文化共生、異文化に対する理解を深める。 |
| | 総合科学実践プロジェクトB | | | ◎ | | | ○ | ○ | サマースクールプログラムに参加することで、実践的な語学運用能力を高め、同時に国際交流プログラムの運営と実施によって、マネージメント、コーディネート、リーダーシップの能力を身に付ける。 |

| ディプロマポリシー 科目名 | | 【1. 知識・理解】 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|------------------|---------------|--|--|-------------------------------|--|--|--|---|--|
| | | 社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。 | (1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。 | (3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。 | (1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。 | (2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。 | 法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。 | |
| | 総合科学実践プロジェクトC | | | | | ◎ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見(感じた事や考えたこと)を自分の言葉で表現できる 運営体験および観戦者調査を活かした企画をみんなで協力してプレゼンすることができる スポーツの社会的機能(役割)について理解することができる | |
| | 総合科学実践プロジェクトD | | | | ○ | ○ | ◎ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における「心と身体の健康問題」を知る。 2. 地域における「健康社会づくり」を実践していくための基礎的知見を修得する。 3. 地域における「支援の在り方」について提案できる。 | |
| | 総合科学実践プロジェクトE | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際交流、国際協力について基本的な知識を得る。 2. 広い視野、国際的な視野を持つ。 3. 行動力・積極性を身につける。 4. 社会性・対人関係を身につける。 |
| | 総合科学実践プロジェクトF | ○ | ○ | | ◎ | ○ | ◎ | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題を発見できる 2. 課題を解決するための政策をつくらることができる 3. 政策を提案(プレゼンテーション)できる |
| | 総合科学実践プロジェクトG | | | | | ○ | ◎ | | 地域を理解しその場や状況に相応しい作品制作展示ができる。 |
| | 総合科学実践プロジェクトH | | ○ | | ○ | ○ | | | 実地調査の基礎を学ぶことを通じて、自ら研究に必要な素材・視点を探してそれをもとにレポートをまとめる能力をつけるようにする。 |
| | 総合科学実践プロジェクトJ | | | ◎ | | ○ | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 ・グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 |
| | コース入門講座 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | 現代社会が抱える様々な問題に対して、公共政策的観点から解決策を提示できる能力を身につけることを目指す。 |
| | マクロ経済学入門 | ◎ | ○ | | ○ | | | ◎ | 目 標: 経済学の基礎を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力及び数学的能力を獲得する。 テーマ: マクロ経済学の基礎と経済数学の基礎を習得する。 |
| | 経営学 I | ◎ | ○ | | ○ | | | ◎ | 経営学の基礎的な用語と概念を理解し、かつ説明できる。 企業の経営戦略や論理を理解することができる。 理論を実社会に落とし込み考察することができる。 |
| | 憲法 I | ◎ | ○ | ○ | | ○ | | ◎ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 信教の自由と政教分離を理解できる 2. 経済的自由と規制の意義を理解できる 3. 社会権としての諸権利の意義を理解できる 4. 立憲主義の制度としての裁判所の意義、役割を理解できる。 |
| | 民法 I | ◎ | ○ | | | ○ | | ◎ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 民法総則および物権総論に関する基本的な知識を習得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと 3. 民法典の全体像を理解すること |
| | 国際関係論(国際法を含む) | ◎ | ○ | ○ | ○ | | | ◎ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 政治学の基本的知識を得る。 2. 国際政治学と国際法の基本的知識を得る。 3. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について基本的な知識を得る。 4. 幅広い国際的な視点から考察ができる。 5. 現実主義と理想主義の両面を備えた、バランスある発想ができる。 |

| ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。 | 科目の教育目標 |
|-----------|------------|--|--|-------------------------------|---|--|--|---|--|
| | | | (1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。 | (3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を身につけている。 | (1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。 | (2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。 | | |
| 科目名 | | | | | | | | | |
| 地域政策論 I | | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 地域政策に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、政策を分析、政策を立案するために必要な社会科学的手法も身につける。また、具体的な地域政策にふれるようにするため、行政などの実践家にも広義をしてもらう。 |
| | 地理学の基礎 I | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 経済や情報のグローバル化が急速に進む現代において、地域のかたちやしくみはどうかあるべきかが問われている。あらゆる経済活動は地域の資源や市場を前提に成立しており、私たちの暮らしは農業、工業、商業など産業の立地によって支えられている。そうした地域と立地のメカニズムを系統的かつ論理的に考察するのがこの授業の目的である。授業ではチューネン、ウェーバー、クリスターラーに代表される古典立地論を詳しく解説した上で、現代における立地論の新たな展開と応用について学ぶ。また、日本や世界の産業地域とその形成要因について説明する。 |
| | 地理学の基礎 II | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について時間的・空間的な展開の中で理解するとともに、「地誌学」の命題である地域的な差異の特徴について把握できるようになること。 |
| | まちづくり地域社会論 | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 社会学や公共政策学の観点から、まちづくりに関する基礎的な知識を身につける。その際、問題解決に向けた事例の理解、改善に向けた分析手法、そこで生じる陥穽について実践に活用可能な形で学べるようにする。 |
| コース基礎科目 | 公共政策学 | ◎ | ○ | ○ | | | ○ | ◎ | 1. 公共政策学における諸理論を説明できる。 2. 公共政策学の現代的動向と課題を説明できる。 |
| | 政治学 I | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | 環境政策を具体例として、政策を体系的に理解し、その手法について説明できる |
| | 行政法 I | ◎ | ○ | | | ○ | | ◎ | 1. 行政法の基本原理並びに行政行為についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力を養う。 |
| | 商法 I | ◎ | ○ | | | ○ | | ◎ | 商法 I では、株式会社制度の特徴およびその機関について講義を行う。講義全体を通して、会社法がどのように利害関係者間の私的利益を調整しているか理解するとともに、大規模公開会社における株主総会の意義、取締役会の役割、代表取締役の業務執行の在り方、取締役の対会社責任の意義および問題点、監査役・会計監査人制度の在り方といった個別の問題について考える。 |
| | 地域経済論 | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 農林水産業を中心とした地域資源(農地、林野、漁場等)が歴史的に見た使われ方について説明できるとともに、グローバル経済の下での経済環境の変化について理解して、新しい利用について語る。 |
| | マクロ経済学 I | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 目 標: 経済学の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。 テーマ: マクロ経済学の基礎を習得する。 |
| | ミクロ経済学 I | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 数学を用いた厳密な理論で経済理論のメカニズムを把握できる思考力をつけることを目標とする |
| | 財政学 I | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 財政学の基礎的な理解を得る。 |
| | 国際経済学 I | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 第二次世界大戦までの経済史、学説史、学説内容に係わる論点を理解する。 |
| 会計学 I | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | 企業の行った経済活動をどの様に「認識するべきか、また正しく評価できるのか」といった記録面を理解することから始まり、その結果である財務諸表上から情報の利用者が求める「情報を正しく伝えられるのか」といった報告面を理解することを目標とする。 | |

| ディプロマポリシー 科目名 | | 【1. 知識・理解】 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|------------------|---------|--|--|-------------------------------|--|---|--|---|---------|
| | | 社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。 | (1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。 | (3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。 | (1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立して主体的に行動することができる。 | (2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。 | 法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。 | |
| | 憲法Ⅱ | ◎ | ○ | | | ○ | ◎ | 1 表現の自由の意義を理解できる。 2 参政権と選挙制度の意義を理解できる 3 統治の原理を理解できる 4 統治機構論の内、議会、内閣、地方自治を理解できる | |
| | 行政法Ⅱ | ◎ | ○ | | | ○ | ◎ | 1. 行政行為以外の行政活動の法形式並びに行政救済法についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力をさらに深める。 | |
| | 商法Ⅱ | ◎ | ○ | | | ○ | ◎ | 商法Ⅱでは、株式の意義、種類株式制度、新株発行による企業の資金調達、企業再編、会社設立等について講義を行います。それにより、企業金融および企業再編の分野において会社法が利害関係者間の私的利益をどのように調整しているか理解するとともに、取引所における取引客体としての株式の意義、種類株式の多様化とその問題点、第三者割当増資に対する法規制の在り方、敵対的企業買収に対する法規制、組織再編の柔軟化とその問題点等の個別問題について受講生自身に考えてもらいたいと思っています。 | |
| | 経営学Ⅱ | ◎ | ○ | | ○ | | ◎ | 経営組織の特徴、伝統的組織論など、経営組織論に関する主要な概念や理論、財務管理論を習得し、それを応用しながら、組織を管理・運営する経営者の視点により、組織の諸問題について理論的に分析できるようにすることが目標です。 | |
| | 民法Ⅱ | ◎ | ○ | | | ○ | ◎ | 1. 契約法および不法行為法に関する基本的な知識を取得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと | |
| | 民法Ⅲ | ◎ | ○ | | | ○ | ◎ | 1. 債権法総論および担保物権に関する基本的な知識を取得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと。 | |
| | マクロ経済学Ⅱ | ◎ | ○ | | ○ | | ◎ | 目 標: 経済学の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。 テーマ: マクロ経済学の基礎を習得する。 | |
| | ミクロ経済学Ⅱ | ◎ | ○ | ○ | | | ◎ | 初歩の微積分学の知識を援用して、経済学におけるミクロ分析手法の基礎を習得する。 | |
| | 国際経済学Ⅱ | ◎ | ○ | ○ | | | ◎ | 第二次大戦後の国際経済の変化と、それに対応する理論内容を理解する。 | |
| | 財政学Ⅱ | ◎ | ○ | | ○ | | ◎ | 【目的】財政学の主要なトピックスについて、自ら考え、分析することができるようになるための基礎的な分析方法を講ずる。 【目標】財政学の考え方をを使って、財政に関わる問題を分析することができるようになる。 | |
| | 平和学 | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | 1. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について基本的な知識を得る。 2. 国際政治と国際法の基本的知識を得る。 3. 幅広い国際的な視点から考察ができる。 4. 平和で公正な世界の実現に向け、意欲と行動力を発揮することができる。 | |
| | 政治学Ⅱ | ◎ | ◎ | | ○ | ○ | ◎ | 環境政策を具体例として、ガバナンス、システム、近代といった政治学の基本について説明できる | |
| | 会計学Ⅱ | ◎ | ○ | | ○ | | ◎ | 日本商工会議所簿記検定試験3級程度の実力を身につけることを目指す。 1. 知識(理解)・・・複式簿記の記帳方法を理解するとともに、個人企業の経営分析ができる能力を養う。 2. 態度(関心・意欲)・・・財務諸表を通して個人企業のCSR(社会的責任)を身に付ける態度を養う。 3. 技能(表現)・・・利害関係者に個人企業の経営状況について、財務諸表を通して説明できる能力を取得する。 | |

| ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。 | 科目の教育目標 | |
|-----------|----------------------|--|--|-------------------------------|--|--|--|---|--|--|
| | | | (1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。 | (3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。 | (4) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。 | (5) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。 | | | |
| 科目名 | | | | | | | | | | |
| コース応用科目 | 近現代世界の成立と展開 | | | | | | ○ | | 特に、講義でとりあげる各国の近代化過程を、比較史的に、またグローバルな視野をもって理解すること、学習した内容を再構成して、明快な論文によって表現できること。 | |
| | グローバル・ヒストリー(イギリス近代史) | | | | | | ○ | | 1. 歴史学による対象への基本的なアプローチ方法を理解できる。 2. 現代のグローバル社会の歴史的起源について理解し、現在の自己の立ち位置を歴史的パースペクティブを踏まえ理解できる。 | |
| | 国際協力論－応用編－ | ◎ | ○ | ○ | | | | ○ | ◎ | 外国文化(異文化)の理解 現代社会や地域の課題を分析する能力の養成 国際感覚の養成 グループ・ワークの実施 |
| | 公共政策総合演習 I | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ・国際政治に関する知識の習得と、考察力の習得、プレゼンテーション、コミュニケーション、討論のスキルの習得。 ・生物経済学の基礎的な知識を取得するとともに、数理的な取り扱いを苦にしないで済むようにする。判りやすいプレゼンテーションができるようになる。 ・環境政治学的思考を身につけること。 ・経済学の基本的な考え方(合理性)を身につけてほしい ・このゼミの目的は、資本市場法制・株式会社法制に関する様々な問題の検討を通して、皆さんに法的なものの方・考え方を養ってもらうことです。それにより、皆さんが大学卒業後、社会に出て様々な問題に直面した際に、それらの問題について自ら考え対処できる能力を身に付けてもらいたいと思っています。このゼミに参加される皆さんの将来の目標はそれぞれ異なると思いますが、お互い切磋琢磨しながら目標実現に向けて精進してください。担当教員も皆さんと一緒にゼミ活動を充実させたいと考えています。 ・1. 関心のある政策分野の現代的動向について説明できる。 2. 関心のある政策分野における問題の構造について説明できる。 3. 関心のある政策分野における問題の解決策について、他者とのコミュニケーションを通して討議できる。 4. 必要な文献や情報を収集・整理し、それらを分析・解釈できる。 5. 研究結果をプレゼンテーションできる。 6. 文書を論理的に読み書きできる。 |
| | 公共政策総合演習 I | | | | | | | | | 経済学の基本的な考え方(合理性)を身につけてほしい |
| | 公共政策総合演習 I | | | | | | | | | このゼミの目的は、資本市場法制・株式会社法制に関する様々な問題の検討を通して、皆さんに法的なものの方・考え方を養ってもらうことです。それにより、皆さんが大学卒業後、社会に出て様々な問題に直面した際に、それらの問題について自ら考え対処できる能力を身に付けてもらいたいと思っています。このゼミに参加される皆さんの将来の目標はそれぞれ異なると思いますが、お互い切磋琢磨しながら目標実現に向けて精進してください。担当教員も皆さんと一緒にゼミ活動を充実させたいと考えています。 |
| | 公共政策総合演習 I | | | | | | | | | 1. 関心のある政策分野の現代的動向について説明できる。 2. 関心のある政策分野における問題の構造について説明できる。 3. 関心のある政策分野における問題の解決策について、他者とのコミュニケーションを通して討議できる。 4. 必要な文献や情報を収集・整理し、それらを分析・解釈できる。 5. 研究結果をプレゼンテーションできる。 6. 文書を論理的に読み書きできる。 |

| 科目名 | ディプロマポリシー | 【1. 知識・理解】 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|--------------|-----------|--|--|-------------------------------|--|--|--|---|--|
| | | 社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。 | (1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。 | (3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。 | (1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。 | (2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。 | 法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。 | |
| 公共政策総合演習Ⅱ | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 国際政治に関する知識の習得と、考察力の習得。プレゼンテーション、コミュニケーション、討論のスキルの習得。 生物経済学の基礎的な知識を取得するとともに、数理的な取り扱いを苦にしくなくすむようになる。判りやすいプレゼンテーションができるようになる。 環境政治学的思考を身につけること。 経済学の基本的な考え方(合理性)を身につける。 このゼミの目的は、資本市場法制・株式会社法制に関する様々な問題の検討を通じて、皆さんに法的なものの方・考え方を養ってもらうことです。それにより、皆さんが大学卒業後、社会に出て様々な問題に直面した際に、それらの問題について自ら考え対処できる能力を身に付けてもらいたいと思っています。このゼミに参加される皆さんの将来の目標はそれぞれ異なると思いますが、お互い切磋琢磨しながら目標実現に向けて精進してください。担当教員も皆さんと一緒にゼミ活動を充実させたいと考えています。 1. 自らの関心に基づく研究課題が設定できる。 2. 文献調査や社会調査等による各種データの収集・整理ができる。 3. 収集したデータの分析・解釈ができる。 4. 研究結果をプレゼンテーションし、それに基づくディスカッションができる。 5. 論理的な文章表現ができる。 |
| 公共政策総合演習Ⅱ | | | | | | | | | 経済学の基本的な考え方(合理性)を身につける |
| 公共政策総合演習Ⅱ | | | | | | | | | このゼミの目的は、資本市場法制・株式会社法制に関する様々な問題の検討を通じて、皆さんに法的なものの方・考え方を養ってもらうことです。それにより、皆さんが大学卒業後、社会に出て様々な問題に直面した際に、それらの問題について自ら考え対処できる能力を身に付けてもらいたいと思っています。このゼミに参加される皆さんの将来の目標はそれぞれ異なると思いますが、お互い切磋琢磨しながら目標実現に向けて精進してください。担当教員も皆さんと一緒にゼミ活動を充実させたいと考えています。 |
| 公共政策総合演習Ⅱ | | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 1. 自らの関心に基づく研究課題が設定できる。 2. 文献調査や社会調査等による各種データの収集・整理ができる。 3. 収集したデータの分析・解釈ができる。 4. 研究結果をプレゼンテーションし、それに基づくディスカッションができる。 5. 論理的な文章表現ができる。 |
| 知的財産の基礎と活用 | | ◎ | ○ | | ○ | | | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 学部や大学院で実験を行う際に知っておきたい知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動する際に役に立つ知的財産制度の内容を理解する。 |
| ブランド戦略論 | | ◎ | ○ | | ○ | | | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ブランド一般の目的、機能を説明できる。 2. 食料・農業分野におけるブランド形成・管理の特徴と課題について説明できる。 3. 地域ブランド戦略の特徴と課題について説明できる。 |
| 社会変動論 | | | | | ◎ | | ○ | | 数十年単位の社会の変化を巨視的に捉えるのが、社会変動論の特徴である。本講義では、そのうち現代社会の特質を把握するためのさまざまな議論を、個別領域毎に解説していきたい。社会変動に関連して自分で選択したテーマについて、文献を読んでデータを集め、レポートを書けるようにするのが目標となる。 |
| 福祉社会論 | | | | | ◎ | | ○ | | 福祉社会に関して、医療や家族との関連を中心に講義する。それにより、現在の福祉が直面する困難について理解し、各人の立場を持てるようにする。 |
| 比較社会論 | | | | | ○ | ○ | ◎ | | <ul style="list-style-type: none"> 1. 移民の事情を学び国際社会を理解することができる。 2. 自国の文化と社会を相対化し、理解することを目指す。 3. 日本に住む外国人の事情を学び異文化理解を深める。 |
| 市民活動論 | | | ◎ | | ○ | ◎ | ◎ | | 社会運動の意義と運動のなかで培われた表現の文化を理解し、自由と平等という近代的な価値を実現するために必要な思考と実践の構えを身につけること。 |
| スポーツ社会学 | | | | | | ◎ | ○ | | 地域のスポーツ振興に対する社会基盤整備について理解する |
| スポーツ経営学 | | | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | | 1 実践科学としてのスポーツマネジメントに関する基礎知識の習得とその応用力を身に付ける |
| スポーツマーケティング論 | | | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | | レジャーマーケティングに関する基礎知識を理解するとともに、事業戦略について思慮できる能力を身につける。 |
| 地域計画Ⅰ | | | | | ○ | | ◎ | ○ | 都市計画とまちづくりの観点から、地域計画の方法や理論を学ぶ。単に知識を身につけるだけでなく、地域計画に対する提案までできることが目標となる。 |

| ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|-----------|-----------|--|--|-------------------------------|---|---|--|---|--|
| 科目名 | | 社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。 | (1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。 | (3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言でできる技能を修得している。 | (1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立して主体的に行動することができる。 | (2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。 | 法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。 | |
| | 地域計画Ⅱ | | | | ○ | | ◎ | ○ | 地域計画Ⅱは総論として、Ⅱは各論として位置づけられる。Ⅱでは、特に過疎地域におけるまちづくりに焦点を当てつつ、悪条件下での地域づくりの理論や手法を学ぶ。これにより、地方にあってまちを維持するための条件を理解できるようにする。 |
| | 都市・交通計画 | | | | ○ | | ◎ | ○ | 都市計画に関する基礎的な知識を修得する。(1~6回) 交通計画に関する基礎的な知識を修得する。(7~14回) |
| | アフリカ地域研究 | | | | | ○ | ○ | ○ | 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる。 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる。 |
| | 現代国際情勢概論 | | | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | 1. 現代の国際社会で生じている諸問題について、自ら考える力を身につける。 2. 現代の国際社会で生じている諸問題について、自分の意見を英語を用いて発信する力を身につける。 |
| 卒業研究 | 国際ジャーナリズム | | | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | 1. ジャーナリズム研究の基本的知識を身につける。 2. 世界主要ニュースメディアの特徴がわかる。 3. 世界のメディアが発信する情報から必要な情報を検索し、利用できる。 |
| | 現代アジア社会Ⅱ | | | | | ◎ | ◎ | ○ | 現代中国を知る上で必要な歴史を理解する。 |
| | 卒業研究 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ・卒業論文を完成させるために必要な知識を獲得すること ・一年間を通して学部で勉強した知識を文書化し、卒業論文を完成する ・テーマを設定し、卒業論文にまとめる ・卒業論文を作成できる |